

令和4年度 徳島中学校総括評価表

	自己評価				学校関係者評価			
	重点課題	重点目標	活動計画	評価指数	総合評定	評価指数の達成度および所見		
学校経営	地域とともにある学校として、教育活動の充実を図るとともに、生徒・教職員にとって、自己実現のできる学校をめざす。	1. 保護者や地域の人々の意見を重要と大切にした学校運営をめざす。	1. 学年だより・ホームページ等による積極的な情報発信とともに、現状に即した学校行事の工夫やオンライン等での積極的活用で、身近で聞かれたい学校づくりに積極的運営を進める。	1. 学校から発信する各種よりや文書等により、保護者に対して十分な情報を伝えることができていると思う保護者が90%以上いる。(アンケート調査)	B	○今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンラインでの学校運営を進めた。また、非公開とした。そこで、参加希望がある保護者が40.2%と、昨年と同様に9割を超えている。教育への関心の高さを強く感じる結果であった。今年度の間に、保護者の意向を積極的に反映するよう、保護者と特に関心した学校活動の様子や情報発信や公開方法などを考え進めていく。 ○学校からの情報発信については今年度は1%の保護者が質問に答えてくれた。自己満足の状態にはなっていない。 ○生徒は楽しく学校生活を送れていると2.8%が回答。教職員も協力して楽しく仕事ができたと94.9%が回答。昨年並と見做して80%以上をクリアした。	○保護者や地域の人々の意見を重要と大切にしたい。学校運営などでの学校経営が十分にできている。 ○教科指導が充実している。教育の在り方が変化している。ICTに依存するのではなく、タブレット等の有効活用を推進していく時代であると感ずる。 ○人権教育で、自尊感情を育む教育が実践できている。	
		2. 生徒と教職員が自他の存在を認め合い、各自目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	2. 生徒相互・教職員相互で協力し合い、各自の目標が達成できるような手立てを、主体的に活用できる場を設定する。	2. 学校において自分の活躍の場があり、仲間と協力できていると感じる生徒・教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)		○「授業が分かる」生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)	○道徳教育が充実しており、人として、ともによく生きていこうとする生徒を育成できている。 ○挨拶や服装等について指導できている。	
		3. 生徒と教職員が自他の存在を認め合い、各自目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	3. 生徒と教職員が自他の存在を認め合い、各自目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	3. 「授業が分かる」生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)		○「知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員」100%。「生徒の思考を深めるための手立てを行った教職員」98.9%。「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上いる。 ○「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)	○自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。 ○自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。	
教科指導	生徒一人一人が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践をめざす。	1. 教科部会や研修を活用し、生徒の知識及び技能の習得を徹底する。	1. 生徒に各教科の特性に合わせた知識・技能の習得を徹底する。教科部会や研修などで検討、実践する。	1. 「授業が分かる」生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)	B	○「知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員」100%。「生徒の思考を深めるための手立てを行った教職員」98.9%。「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上いる。 ○「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)	○道徳教育が充実しており、人として、ともによく生きていこうとする生徒を育成できている。 ○挨拶や服装等について指導できている。	
		2. 生徒と教職員が自他の存在を認め合い、各自目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	2. 生徒相互・教職員相互で協力し合い、各自の目標が達成できるような手立てを、主体的に活用できる場を設定する。	2. 「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上いる。 ○「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めた」と感じている生徒が90%以上。知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)		○自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。 ○自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。		
		3. 生徒と教職員が自他の存在を認め合い、各自目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	3. 生徒相互・教職員相互で協力し合い、各自の目標が達成できるような手立てを、主体的に活用できる場を設定する。	3. 「学習意欲に対して、主体的に取り組める」生徒が90%以上。主体的に取り組めるための手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)		○「学習意欲に対して、主体的に取り組める」生徒が90%以上。主体的に取り組めるための手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)	○道徳教育が充実しており、人として、ともによく生きていこうとする生徒を育成できている。 ○挨拶や服装等について指導できている。	
人権教育	自他のよさを認め合い、すべての生徒の自己と自己実現のできる人権教育をめざす。	1. ささまざまな人権問題の解決に向けて主体的な行動力を育成する。	1. 年間指導計画を見直し、授業や体験的活動および行事を充実させる。	1. 自分が大切にされていると感じている生徒が90%以上いる。 2. 相手の尊重し大切にされていると感じている生徒が90%以上いる。(アンケート調査)	B	○自分が大切にされていると感じている生徒は82.9%。相手の尊重し大切にされている生徒は8%と目標を達成できず、この3年間は安定して目標達成できている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、人権教育見直し委員会での取組を一部「先手」で終わる等得ない状況であったが、自らの授業に積極的に取り組むことで、この3年間の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○全ての教育活動を通して、一人一人の個性の伸ばしを図り、自分の将来に対して夢や希望をもち、目標に向かって努力する生徒を育成する指導が十分に行われている。 ○特別支援教育において、個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る指導ができていく。 ○コロナ禍で、様々なことに困難が伴う中、また、多様な生徒が増えつつある中、引き続き大変なことが多いと思うが、生徒の成長の一助となる学校、先生であってほしいことを願っている。	
		2. 自分を大切に、自尊感情を育てることで、前向きに生きる態度を養う。	2. 自分を大切に、自尊感情を育てることで、前向きに生きる態度を養う。	2. 自分を大切に、自尊感情を育てることで、前向きに生きる態度を養う。		○自分が大切にされていると感じている生徒は82.9%。相手の尊重し大切にされている生徒は8%と目標を達成できず、この3年間は安定して目標達成できている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、人権教育見直し委員会での取組を一部「先手」で終わる等得ない状況であったが、自らの授業に積極的に取り組むことで、この3年間の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○自分が大切にされていると感じている生徒は82.9%。相手の尊重し大切にされている生徒は8%と目標を達成できず、この3年間は安定して目標達成できている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、人権教育見直し委員会での取組を一部「先手」で終わる等得ない状況であったが、自らの授業に積極的に取り組むことで、この3年間の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	
		3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。		3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	○自分が大切にされていると感じている生徒は82.9%。相手の尊重し大切にされている生徒は8%と目標を達成できず、この3年間は安定して目標達成できている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、人権教育見直し委員会での取組を一部「先手」で終わる等得ない状況であったが、自らの授業に積極的に取り組むことで、この3年間の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。
道徳教育	豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	1. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	1. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	1. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	B	○道徳の授業で、友達の意見を聞いたり、議論したりして、自分の考えを深めることができている生徒は82.3%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年の授業に対する取り組みが、学年ごと「自主・自立」の探究学習の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○道徳の授業で、友達の意見を聞いたり、議論したりして、自分の考えを深めることができている生徒は82.3%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年の授業に対する取り組みが、学年ごと「自主・自立」の探究学習の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	
		2. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	2. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	2. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。		2. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	○道徳の授業で、友達の意見を聞いたり、議論したりして、自分の考えを深めることができている生徒は82.3%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年の授業に対する取り組みが、学年ごと「自主・自立」の探究学習の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○道徳の授業で、友達の意見を聞いたり、議論したりして、自分の考えを深めることができている生徒は82.3%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年の授業に対する取り組みが、学年ごと「自主・自立」の探究学習の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。
		3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。		3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	3. 豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	○道徳の授業で、友達の意見を聞いたり、議論したりして、自分の考えを深めることができている生徒は82.3%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年の授業に対する取り組みが、学年ごと「自主・自立」の探究学習の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。
進路指導	自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	1. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	1. 進路指導計画を見直し、授業や体験的活動および行事を充実させる。	1. 自分が大切にされていると感じている生徒が90%以上いる。 2. 相手の尊重し大切にされていると感じている生徒が90%以上いる。(アンケート調査)	B	○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	
		2. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	2. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	2. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。		○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	
		3. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	3. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。	3. 自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、進路指導を充実させる。		○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	○進路指導が十分に行われている。 ○進路指導が十分に行われている。	
生徒指導	生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。いじめの未然防止や早見発見・早期解決に向け取り組む。	1. 集団のルールを守る事の大切さを指導徹底する。	1. 生徒会を中心に服装検査等を実施する。	1. 正しい服装ができる生徒を100%に近づける。(アンケート調査)	B	○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	
		2. あいさつの習慣を定着させる。	2. 教職員や生徒会活動によるあいさつ運動を実施する。	2. 挨拶ができてきた生徒を100%に近づける。(アンケート調査)		○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	
		3. いじめは、生徒や人権に関わる絶対許されない行為であることを認識させる。	3. 「学校生活に関する調査」を、学期一度実施する。	3. いじめがないと答えた生徒を100%に近づける。(アンケート調査)		○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	○今年度は「元気がいい、服装を整える」生徒指導の重点目標として取り組み、挨拶ができていると答えた生徒が88%と昨年同様満足できる状況である。服装をきちんとできているという問いに対しては、生徒、保護者、教職員ともに100%に近い割合であった。生徒からの声掛けや、教職員による生徒生活を送れていることが分かる。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、表し特別の取組の取組が、学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ、コロナ感染症の流行に伴い、不登校生徒の割合が増え、アンケート結果の取組に差が生じ、増分として、自分自身から気づき、周囲との関係に悩んでいる生徒が少なからずいると考えられる。引き続き、人権意識の向上に向け、努力していくことが大切である。	
安全指導	生徒からの生命や安全確保に対する意識の高揚をめざす。	1. 交通安全・マナーを徹底させる。	1. 生徒会を中心に交通安全の遵守や交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	1. 交通安全が守られていると答えた生徒を100%に近づける。(アンケート調査)	B	○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	
		2. 自然災害や不審者出没などの緊急事態発生時、適切な行動がとれるように指導する。	2. 自然災害や不審者対応についての安全指導と避難訓練を実施する。	2. 避難訓練が状況に合わせてスムーズに行えるようになる。		○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	
		3. 自然災害や不審者出没などの緊急事態発生時、適切な行動がとれるように指導する。	3. 自然災害や不審者対応についての安全指導と避難訓練を実施する。	3. 避難訓練が状況に合わせてスムーズに行えるようになる。		○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。 ○交通安全やマナーを守って通学できていると回答した生徒が97%であった。しかし、歩道や自転車道、歩道や自転車道が狭く、中学生の意識と実態にずれが生じていると考えられる。また、保護者や教員からの声掛けや、交通安全の向上を促すとともに、教職員による街頭指導を行う。	
保健指導	健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	1. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	1. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	1. 健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	B	○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	
		2. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	2. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	2. 健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)		○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	
		3. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	3. 健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	3. 健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)		○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	○健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上に近づける。(アンケート調査)	
図書館教育	読書習慣を整え、読書習慣の促進と定着をめざす。	1. 図書室を積極的に活用させる。	1. 図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	1. 図書室を利用したことがある生徒が80%以上になる。(アンケート調査)	B	○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	
		2. 読書文化を醸成させる。	2. 読書文化を醸成させる。	2. 読書文化を醸成させる。		○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	
		3. 読書文化を醸成させる。	3. 読書文化を醸成させる。	3. 読書文化を醸成させる。		○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。 ○図書室委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	
環境教育	環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	1. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	1. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	1. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	B	○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	
		2. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	2. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	2. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。		○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	
		3. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	3. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	3. 環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。		○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	○環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	
特別支援教育	生徒一人ひとりの理解に努め、適切な支援をめざす。	1. 校内支援委員会を開催し、生徒理解に努める。	1. 学年会を中心に各学年の支援を必要とする生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	1. 全教職員が個々の生徒の特性を把握している。(アンケート調査)	B	○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	
		2. 個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る。	2. 関係機関や家庭と連携しながら、適宜ケース会議を開催する。関係の指導計画や個別的教育支援計画の作成を行う。	2. 教育相談等の記録を残し、個々のケースに応じた適切な支援が計画的に行われる。		○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	
		3. 全教職員が特別支援教育に関する理解を深める。	3. 全教職員が特別支援教育に関する理解を深める。	3. 全教職員が特別支援教育に関する理解を深める。		○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。 ○職員会議や学年会が支援が必要な生徒について共通理解を図り、支援が必要な生徒の把握に努め、校内支援委員会を通して共通理解を図る。	

評定の基準 A:十分達成できた。B:おおむね達成できた。C:達成できなかった